

団体名	所在地	活動内容の概要
特定非営利活動法人 近自然森づくり協会 理事長 岡村 俊邦	東京都	【イオルの森再生に向けた近自然森づくり技術の共同開発】 アイヌ文化の振興には、その基盤となっていたイオルと呼ばれる伝統的な生活空間の再生が不可欠です。イオルの森の再生に取り組む平取町の方々と情報交換と試験段階の協働の結果、人為的な裸地に多様な樹種からなる樹林を再生する「生態学的混播・混植法」と既存林を持続的に利用する「育成木施業」からなる「近自然森づくり」が最適と判断しました。このため、「近自然森づくり」を地元の方々と協働で実施し、持続的な生態系サービスを豊かに得られるイオルの森の再生法を確立します。
北海道和種馬保存協会道央支部 支部長 阿部 英雄	恵庭市	【ドサンコホーストレッキングによるエコツーリズム】 北海道には、宗谷丘陵のような緩やかな周氷河地形に造成された広大な牧野や、石狩川下流当別地区自然再生地のような河原草原が広がり、また、北海道の開拓に活躍したホーストレッキングに適した小型の在来馬であるドサンコが飼育されている。これらの条件は、ホーストレッキングの世界的聖地として知られているモンゴル高原に匹敵する条件を有している。これらの広大な牧野や草原を利用し、北海道の在来馬であるドサンコによるホーストレッキングビジネスの立ち上げとネットワーク化を検討し、地域振興と在来馬保存の可能性を探る。
伊達洞爺湖ミュージアム地域振興プラットフォーム 委員長 石森 秀三	札幌市	【ICOM KYOTO 2019 ポストカンファレンスin北海道伊達】 伊達市、洞爺湖町には「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録を目指す縄文遺跡群が所在する。こうした地域特有の資源を地域づくりに価値ある新たな資源として観光振興を図る一環で、平成31年9月に京都で開催される国際博物館会議のポストカンファレンスを北海道伊達市での開催に向け活動を実施する。
NPO法人 なよろ観光まちづくり協会 会長 吉田 肇	名寄市	【北海道命名150年記念 自転車で巡る松浦武四郎縁の地】 平成30年は、北海道命名150年であるとともに、北海道の名付け親である松浦武四郎生誕200年の節目の年にあたり、名寄周辺にも北海道命名の地や宿营地等、松浦武四郎に縁あるスポットが数多く存在する。これまでもサイクルイベント等を通じ、同ツーリズムの地域への定着を図ってきた。さらに認知度を高めるような活動展開が不可欠であることから、松浦武四郎生誕200年を契機として、同氏の名寄地域での偉業を振り返るとともに、地域内外への幅広いプロモーションにも注力しながらサイクルツーリズムの更なる普及・拡大を図る。
くしろロコサイクルプロジェクト 代表 松岡 篤寛	釧路市	【地域住民・企業・団体連携による「くしろ地域のサイクル環境づくりプロジェクト」】 平成29年5月に自転車推進活用法が施行。釧路地域では、試行ルート「阿寒・摩周・釧路湿原ルート」が選定され、サイクルツーリズムに対する機運が高まっている。しかし、試行ルートに隣接した鳥取地区・阿寒市街・山花地区にはサイクリストの休憩スポットやメンテナンススポット、地域情報の発信が不足している。また、釧路市街から阿寒市街までを結ぶ「釧路阿寒自転車道」も十分に活用がされず、利用者が少ない状況にある。
江差町歴まち商店街協同組合 理事長 萩原 徹	江差町	【江差着もの語り～「着物で歴まち散策」発信活動】 江差町は平成29年に「日本遺産のまち」として認定を受け、町全体でインバウンド対策の取組を強化。当組合では「着物の似合う街」として平成28年より観光客向け体験メニューの「着物で歴まち散策」を開始。成熟度の向上と受入体制強化によって利用数増加を図り、江差町の魅力向上や滞在時間の延長につなげることが重要である。そのため、空き店舗を利用した着物散策の拠点づくりを行うと共に、着付けスタッフ養成、地域側の着物でのお出迎え、英語パンフレットや撮影スポットマップの作成等による利便性向上等の活動を展開し、世界各地からの受入体制をつくり発信する。
しょこつがわ連携研究会 代表 竹内 正美	紋別市	【渚滑川における上下流の交流及び新たな資源を活用した魅力と付加価値創出による観光産業構築の取組み】 1. 渚滑川を活用した観光のブランディング開発 1) 歴史・文化による観光可能性調査と発信 2. 観光メニューの構築と新たな観光事業の構築 1) 松浦武四郎ロードの設定 2) 渚滑川のウォーキングコースの設定 3) 冬のメニューの構築 4) 松坂市との交流事業 5) モニターツアーの実施 3. 観光事業推進のための基盤整備の検討と提案 1) 移動仮設トイレ設置等 2) 観光客の安全対策 4. 滝上町と紋別市との協働事業の提案 1) 滝上町110年祭イベント参加 2) シンポジウム・ワークショップ・パネル展の開催 5. シンポジウムの開催 新たな観光創出と上下流の交流による、渚滑川の魅力と付加価値創出による流域観光産業の可能性について
特定非営利活動法人 うらほろスタイルサポート 理事長 門馬 孝敬	浦幌町	【「地域・学校協働」を学ぶ短期滞在型研修】 全国で求められる「地域・学校協働」の専門性を、教員等を志す若年層が学ぶ合宿形式の研修会を先進地である浦幌町で実施する。研修は、8月末から9月前半の4泊5日程度の中で、浦幌町の地域と学校が連携した行事にスタッフとして参加することを中心に外部専門家等を誘致し、ワークショップ等も実施。また、研修参加者の中から次年度の研修を運営するインターンを募集し、業務の中で、さらなるスキルを身につけることも期待する。 社会的背景により、その必要性が高まる中、若年層がその専門性を実践的に学ぶ機会には他に見当たらない。浦幌町から、「地域・学校協働」の専門性を身に着けた教員やコーディネーターを全国に排出することを第一義として、浦幌町における交流人口や「うらほろスタイル推進事業」の担い手育成とも位置づけ企画を実施する。